

心理学概論

単位数	履修方法	配当年次
4	R or SR	1年以上



科目コード **FA2501** 担当教員 **佐藤 俊人**

■科目の内容

生命体が目指すのは「生きる」ことです。ところが「うまく」生きるために、進化の過程で「心」という働きができ、心の働きはしだいに精巧になり、ものの世界とは別に心の世界をつくりました。その心の働きと、心の内容についてのまとまった知識が心理学です。

心理学の概要を、まず心理学の問題史と研究方法の特徴を通して学び、そのあと、心は発達のどのような形成されるのか、人が環境についての情報を入手するための心の働き、欲求や願望の充足を求めるときの心の動き方、経験を蓄積し利用する心の仕組み、困難な場面に直面したときの心の動き方と心の使い方、一人ひとりの心の働きの個性的特徴とその捉え方などについて学んでほしいと思います。

心の「働き」とは、たとえば「見る」「考える」などで、心の「内容」とは、その結果できあがったイメージや知識などのことです。

■到達目標

心理学を実学ととらえ、心理学諸理論を説明できることに加え、実生活に応用できる。

■教科書

金城辰夫監修、藤岡新治・山上精次編『図説 現代心理学入門（四訂版）』培風館、2016年（三訂版でも可）

（最近の教科書変更時期）2016年4月

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	心理学とは (p. 1~4)	心理学とは何を目的としたどのような学問であるかを理解するとともに、心理学の諸領域について理解する。	心理学では、どのような目的のためにどのような手法を使ってどのような情報を収集するのか、そしてどのような領域に分類されているのかを理解しておくことにより、心理学全体のイメージがわかりやすくなります。
2	社会的行動（社会心理学）①個人と社会 (p. 5~18) 第1部1章 1.1~1.3	社会心理学研究の諸理論を理解する。	多くのストレスは対人関係に起因するものです。社会心理学の基本を学ぶことにより、自由に活動しているように見える個人が、いかに社会的な要因によって縛られているかを考えてみましょう。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
3	社会的行動（社会心理学）②コミュニケーション（p. 18～33） 第1部1章 1.4～1.7	集団の中でも個人の動きについて、社会心理学的な視点から理解する。	社会心理学の諸理論は、自分の周りに実際にある事例などを考えながら学習することが、理解をより深めます。日常生活の中で、心理学がどのように関連しているのかを考えながら学習してみましょう。
4	パーソナリティと適応（臨床心理学）①パーソナリティの諸理論（p. 35～42） 第1部2章2.1	さまざまなパーソナリティ理論について理解する。	心理検査によってパーソナリティを測定することは心理学の大きな課題の一つですが、測定されるべきパーソナリティについて理解することにより、次に学習する心理検査の理解がスムーズになります。
5	パーソナリティと適応（臨床心理学）②心理テスト（p. 42～50） 第1部2章2.2	心理アセスメントで使われる心理テストの全体像を理解する。	心理検査には、性格検査、知能検査その他様々な目的の検査があり、その中でも質問紙法、作業検査法、投影法などの手法にわかれています。これら心理検査の基本を学ぶことにより、心理検査の長所と短所を自分なりに考えてみてください。
6	パーソナリティと適応（臨床心理学）③適応と防衛機制（p. 50～68） 第1部2章 2.3～2.6	フラストレーションに関する理論を理解するとともに、私たちがフラストレーションと戦うために持っている防衛機制について理解する。	様々な不適応状態についての基本を概観するとともに、そのような状態に対する心理的支援の方略としてどのような方法があるのか、その基本を学び、将来の臨床心理学的な支援への足がかりをつかみましょう。
7	成熟と成長（発達心理学）①（p. 71～82） 第2部3章 3.1～3.2	発達とは青年期までだけのものではなく、超高齢社会にも対応した発達観があることを理解するとともに、発達心理学における研究方法について理解する。	人間の発達の様相を研究する様々な方法がありますが、それぞれ長所と短所があります。また、例えば遺伝の力を確かめているような研究でも環境要因を排除できていなかったり、因果関係と相関関係を混同していたりする例も少なくありません。自分なりに疑いながら考えてみましょう。
8	成熟と成長（発達心理学）②（p. 82～99） 第2部3章 3.3～3.5	発達に関する古典的な研究について理解する。また、研究の倫理についても考える。	発達心理学では、例えば代理母実験のように、現代では倫理的に実施できないような研究も多くなされてきました。また、人間の親子関係を理解する出发点として、他の動物たちとの比較もされてきました。これら貴重な研究を理解することにより、人間の発達について自分なりに考えてみましょう。
9	学習と動機づけ・情動（行動心理学）①古典的条件づけ（p. 101～108） 第2部4章4.1	心理学における「学習」とはどのようなものかを理解する。その基本的な学習理論である古典的条件づけについて正しく理解する。	レモンを見ただけで、食べてもいないのに唾液が出ます。どうしてこのような現象が起こるのでしょうか。また、この現象を私たちの日常生活に応用するにはどうしたらいいのでしょうか。様々な生理的反応を考え、古典的条件づけの応用性について考えてみましょう。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
10	学習と動機づけ・情動（行動心理学）②オペラント条件づけ（p. 108～114）第Ⅱ部4章4.1	オペラント条件づけに関する古典的な実験を知ることにより、オペラント条件づけのしくみと、その長所、短所を理解する。	私たちは日常的に「いいことをしたら賞」を、「悪いことには罰」を与える、与えられることに慣れています。オペラント条件づけを正しく理解することにより、賞罰の与え方、その危険性などについて考えてみましょう。
11	学習と動機づけ・情動（行動心理学）③動機づけ、情動（p. 114～123）第Ⅱ部4章4.2	動物に行動を起こさせる動機について、本能的なものから社会的なものまで理解する。また、感情というものがどのように生じているのかを理解する。	動物の行動には、さまざまな動因が考えられます。本能的なものであったり、社会的なものであったりしますが、その理論を把握することにより、誰かに何かを行動してほしい際の心理的支援に結びつけることができます。また、感情の発生について脳の働きと関連づけて考えてみると、心理療法への応用も可能になるでしょう。
12	記憶・言語・思考（認知心理学Ⅰ）①記憶（p. 125～138）第Ⅲ部5章5.1	記憶の種類や特徴について理解するとともに、新しい課題に直面した時に人間や動物はどのようにそれを解決するのかについての諸理論を理解する。	私たちは、新しい課題を解決するために様々な方法をとっています。やみくもにやってみることもあれば、こうすればできるはずという、見通しを立てることもあります。
13	記憶・言語・思考（認知心理学Ⅰ）②（p. 138～150）第Ⅲ部5章5.2～5.3	思考に及ぼす言語の影響に関する諸理論を理解する。また、「知能」に関する諸理論を理解し、自分なりに知能を考える。	何ができれば知能が高いのか、については大変難しい問題です。第2章に取り上げられている知能検査を参照しながら、知能に関する諸理論を学んでみましょう。さまざまな問題解決の方法について学んでみましょう。特に試行錯誤学習や洞察学習については、学習と動機づけの章と関連づけながら考えてみてください。
14	感覚・知覚（認知心理学Ⅰ）（p. 153～177）第Ⅳ部6章6.1～6.6	感覚器から入ってくる情報を、私たちは脳で解釈（認知）して判断している。人間の認知が決して現実、事実をそのまま受け取っているわけではないことを理解する。	感覚器から同じ情報を受け取っても、その理解は一人ひとり違います。それぞれの脳で自分らしく判断しているというのを理解しましょう。
15	心的活動の生理学的基礎（生理心理学）（p. 179～199）第Ⅳ部7章7.1～7.9	脳の機能に関する基本的な情報を理解する。	脳科学の発展により、人間の思考や感情を脳内物質や電気信号レベルで説明されるようになってきましたが、それでもなお説明しきれない部分はたくさん残されています。脳の各領域の機能を理解しながらも、脳科学で心を説明する限界なども考えながら学習してみましょう。

■レポート課題

1 単位め	心理学では様々な心理検査（心理テスト）を使って人間の心を理解しようとしています。それら心理検査の種類について概説するとともに、自分だったらどのような目的のためにどんな心理検査を使ってみたいかを記述しなさい。
2 単位め	スキナーによる「道具的条件づけ（オペラント条件づけ）」とはどのようなものかを具体例を挙げながら概説するとともに、自分や周囲の人など身近な経験に照らし合わせながら、道具的条件づけによって他者の行動をコントロールすることの長所と短所を自分なりに考えなさい。
3 単位め	人間の初期（乳幼児期）の親子関係の特徴について、ほかの動物たちの親子関係との違いや愛着理論に絡めながら記述してください。 ※スクーリング受講者専用「別レポート」対象課題・web解答可
4 単位め	心の世界は、「意識される部分」のほかに、意識されない「無意識の部分」が存在するという精神分析の立場から、「無意識が確かに存在する可能性がある」ことを誰かに説明するために書くつもりで、具体例を挙げながら記述しなさい。 ※スクーリング受講者専用「別レポート」対象課題・web解答可

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

(2016年度以前履修登録者) 2017年4月よりレポート課題が変更になりました。『レポート課題集2016』記載の課題でも2018年9月までは提出できますが、できるだけ新しい課題で提出してください。ただし、『レポート課題集2016』記載の1単位めの課題に合格した方は、4単位めの課題は『レポート課題集2016』の課題で提出してください。

■アドバイス

1 単位め アドバイス

いくら心理学を極めたとしても、相手の顔をみただけでその人の性格や心理的特徴がわかる人はいません。

その人に何らかの刺激を与えて、それにどう反応するか、の情報をたくさん集めることによって、はじめてその人の心を理解することができるわけです。テキストにも様々なパーソナリティ検査や知能検査が紹介されています（四訂版・三訂版 p. 42～50 改訂版 p. 32～40）が、まずその全体像をわかりやすく説明してみてください。

また、心理検査を使う場合に大切なことは「なんのためにその検査を実施するのか」その目的がきちんと明確になっているか、ということです。誰かにパーソナリティ検査を実施することは簡単ですが、例えば「あなたは社会的」「あなたは内向的」という結果が得られたとしても、それがどのような目的で使われたのかが明確でない場合は、その人をラベリングするただの心理遊びになってしまいます。もしも「社交的な人はオンデマンドによる履修よりも実際にスクーリングに出席したほうが学習満足度が高いかも？」を確かめるために実施したとすれば、「社交的な方はぜひスクーリングへ！」と提案するための重要な情報を得ることができるかもしれません。

このように、心理検査は目的を明確にして実施すべきものですので、今の皆さんにとって「どのような目的のために、どんな人に、どんな検査をすると、どのような提案の可能性がでてくるか」をイメージしながら論述してください。

なお、レポートで言及することは必須ではありませんが、心理検査については一つの検査の結果からそ

の人を判断するのではなく、テストバッテリーという「組み合わせで総合的に判断する」必要があることを付け加えておきます。

2単位め アドバイス

人間は社会的な動物であり、常にお互いに影響し合っていますが、お互いの間に「ある側面ではどちらかが優位」という関係になった場合、優位に立つ側が他者の行動をコントロールしようとします。その最も簡単な方法の一つが「やって欲しい行動をしてくれた場合」には賞を与え、「やってほしくない行動をした場合」は罰を与えるということで、おそらく人間が人間になった大昔から行われてきました。家庭の中でも悪いことや危ないことをした子どもを叱り（罰を与え）、良い行動をした子どもにご褒美をあげたりほめたりすることは、心理学を知らなくとも誰でもやっていることです。

つまり道具的条件づけ（四訂版 p. 108～114 三訂版 p. 100～105 改訂版 p. 14～16）という方法は、決して心理学者が発明したものではなく、誰もが日常的にやっている他者コントロールの方法です。

まず、その長所を考える場合は、なぜ私たちは「賞と罰」を自然に使ってしまうのか、を考えてみてもいいと思います。あるいはもしも「賞と罰」を使わずに他者の行動をコントロールするとしたら、どのような方法があるか、を考えてみるとおのずと長所（なぜ使いやすいのか、なぜつい使ってしまうのか）が明らかになってくるかもしれません。

しかし、一方では自分が罰を与えられた経験を振り返ってみると、短所もあることも見えてくるはずです。スピード違反をしてお金を納付するのも「罰」ですし、言うことを聞かずに親に「ゴツン」とやられたのも罰です。その直後は反省したり、行動としては一瞬おとなしくなったりしたとは思いますが、それは「考え方や行動の様式が変わった」と言えるでしょうか？おそらく3日もたてばもとの行動に戻っていたのではないかと思います。

このような視点も参考に、道具的条件づけの長所と短所を皆さんなりに考えてみてください。

3単位め アドバイス

初期の親子関係の確立については、文化や各家庭でそれぞれ違って当たり前であり、「正しい親子関係」を論ずることはできません。しかし、例えば「刻印づけ」で有名なハイイロガンと人間は明らかな違いがあり、ハーロウによるアカゲザルを使った代理母親実験も、代理母が、全く動かない布製と針金製の人形（サル形）であるという点ではそのまま人間に当てはめるわけにはいきません。人間は複雑な感情や性格を持っていますので、親子関係や親の養育態度によって子どもはさまざまに変容し得る存在です。

しかし、「必ずしも親が子どもに一方的に影響するわけではない」ことは忘れてはいけません。

テキスト（四訂版 p. 93 図 3-33, 三訂版 p. 87 図 3-27, 改訂版 p. 143 図 6-26）に示されるような関係は広く報告されていますが、あくまでも「関連がある」ということであり、養育態度と子どもの行動性格傾向のどちらが原因でどちらが結果か、については両方の可能性があるわけです。子どもを甘やかすとわがままになる、という表現の情報は私たちにすんなり入ってきますが、ひどくわがままな子を育てていると、甘やかせずにはやってられない、ということもよくある話です。

このように、人間は親と子どもがお互いに影響し合いながら親子関係を発達させていきます。そのような人間の親子関係の特徴について、自身の経験や身近な例などと絡めながら自分なりに論述してください。

4単位め
アドバイス

人間の心を理解するには、その人の行動など「観察できるもの」で判断するという立場もありますが（行動主義）、行動だけでは測れない心、他者からだけではなく自分ですらわからない自分の心が存在するという立場の心理学（精神分析）もあり、それこそが大切な心かもしれません。いわゆる無意識といわれる領域ですが、ふだんは意識に隠れてなかなか外には出てきません。そのような無意識を理解するために精神分析で有名なフロイトは「夢」を集めて分析したり、催眠術を使って一時的に意識を軽くしたりすることにより、「無意識の部分から出てくるもの」を手がかりに研究したわけです。

この課題は難しいように思われるかもしれませんが、私たちは「本当にやりたいこと」を、知らず知らずのうちに身につけた「道徳、倫理観」のためにがまんして、「社会でうまくやっていけるような行動」をしているわけであり、その「本当にやりたいこと」を自分自身でも気づかない可能性があるわけです。インターネットで「フロイト 症例」「エディプスコンプレックス」などで検索してみると、そのあたりの心の複雑な動きが具体的に見えてくるかもしれません。

あるいは、心のうちにあるフラストレーションとうまく付き合うための「防衛機制」という仕組みに絡めて論じることも可能です。「自分が不得意な分野はあきらめて、別な分野で頑張ろう！」という防衛機制（補償）はもしかすると意識なのか無意識なのかイメージがわきにくいかもしれませんが、「退行（赤ちゃんがえり）」などは、意志とは関係なく自然にそうになっている例としてわかりやすいと思います。

これらのすべてに言及する必要はありませんが、無意識などない、と考えている人に無意識の存在の可能性を少しでもわかってもらえるようなレポートにしていただければと思います。

■科目修了試験 評価基準

テキストに書いてあることの暗記～再生では不足です。それを自分なりに理解し、自分のことばに噛み砕いて説明することにより、本当に理解していることを表現してください。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

心理実践力を身につけるため、とくに、「総合的な人間理解力」、「心理学の学びを生かした社会貢献力」を身につけてほしい。

■参考図書

小泉吉宏著『なやんでもいいよとブッタは、いった。』KADOKAWA, 2014年

※教科書各章末の「参考図書」も使えるものがあるかもしれません。